

平成29年度第7回小金井市介護保険運営協議会

計画策定に関する専門委員会会議録

(議事要旨)

と き 平成29年12月15日(金)

ところ 小金井市商工会館 3階 萌え木ホール

平成29年度第7回小金井市介護保険運営協議会（計画策定に関する専門委員会）
議事要旨

日 時 平成29年12月15日（金）午後4時～午後5時

場 所 小金井市商工会館3階萌え木ホール

出席者 <委員>

市川一宏	酒井利高	新井信基
井上雅夫	玉川弘美	亘理千鶴子
佐々木智子	伊藤祐彦	

<保険者>

介護福祉課長	高橋正恵
高齢福祉担当課長	鈴木茂哉
介護保険係長	宮奈勝昭
高齢福祉係長	佐藤恵子
認定係長	中元孝一
介護保険係主任	薄根健史
介護保険係主任	眞柴英明
包括支援係主任	野村哲也

<コンサルタント>

生活構造研究所

欠席者 <委員>

清水洋	橋詰雅志	村上邦仁子
森田和道		

傍聴者 0名

議題

- (1) 第7期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画（素案）について
（協議）

【開 会】 午後 4 時

- ・ 事務連絡（欠席者、発言時の留意点、日程変更）
- ・ 委員長挨拶
- ・ 資料確認

【議 題】

（１）第 7 期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画（素案）について
（協議）

（介護福祉課長より資料 1 の第 5 章の第 1 節から第 3 節、第 4 節から第 8 節、第 6 章を説明）

（酒井委員） 263 ページの（２）について、自立支援・介護予防・重度化防止の取組みの推進は重要であり、内容は基本的に良いと思うが、小金井市は要支援・要介護認定率が高いが、重度の方が少なく、軽度の方が多いということが少しわかりにくい。介護予防事業としてのさくら体操の効果があることや、市民への周知による認定申請の割合が高いことをあげているが、もう少し多角的に見る必要があるのではないかと。東京都内においては、高齢化率が低く、ある意味恵まれた環境であり、その様な中でどういことができるのか、健康で長生きできるまちづくりをどうするのか。非常に大事な部分なので、さらに深い分析が必要ではないかと。

（会 長）高齢化率が低く、健康な高齢者が多い。そういう意味で要支援 1、要介護 1 がいずれも高く、他は比較的抑えられている。そのようなことを明記するとともに、予防を中心とした取り組みが必要だということをもっとわかりやすく書くとよいのではないかと。

（介護福祉課長）住民同士の助け合い、通いの場があれば、要支援の方が要介護認定を受けてデイサービスに通わずに済むということも考えられ、また、要支援の方が多いのは、行政サービスしか選択肢がないのかもしれないという点も考えつつ、ご意見を踏まえ、多角的にわかりやすくまとめることとする。

（会 長）比較的健康的な高齢者が多いという点において、軽度の方にボランティアになっていただくなど、社会参加や多様な介護予防ということが必要である。

（井上委員） 268 ページの通所型サービスの市基準と旧国基準について、私がお手伝いしているデイサービスでは市基準の方が少ないが、他ではも

っと多いので市基準がここまで上がってきているということで、市基準がこんなに高いことに驚いている。

(酒井委員) 269ページの評価指標について、健康寿命の延伸の数字が出ているが、これは平均寿命か、健康寿命か。お年寄りの平均寿命は女性が86歳くらいで男性が81歳くらいである。健康寿命の捉え方が違うのではないか。

(介護福祉課長) 平成27年度現在の東京都福祉保健局が発表した、東京都の平均寿命は男性80.64歳、女性が86.96歳になっている。小金井市は男性81.53歳、女性が87.23歳となっている。小金井市では、平成28年度で75歳から89歳で初めて要介護認定を受けた結果が要支援1、要支援2だった方の平均年齢が82.9歳だった。これを上げていくと、結果的には認定を受ける年齢が平均寿命により近づく。最後までお元気でいただきたいという願いを込めて、これを少しずつ上げられんかという評価指標として出した。

(酒井委員) つまり初めて要介護認定を受けた時の年齢の平均が82.9歳で、そういう指標にしたということか。

(介護福祉課長) 中には90歳以上の方もいらっしゃいますが、それはもう平均寿命より上なので、目標を達成されたとして除かせていただいた。

(井上委員) 一般的な健康寿命の定義とは違うが、私はこちらの方がより実態に近いと考える。

(介護福祉課長) この指標が伸びていくことによって、健康寿命についても延びていくものだろうと考えている。

(酒井委員) 申請までの期間を長くするということについて、もう少し説明を加えていただくのがよいのではないか。

(会 長) 新規要介護認定者数の平均年齢をあげていくということについて、もう少し文章で補足して書くとよい。

(新井委員) 見込量の表については、実績値と計画値があるとわかりやすいのではないか。PDCAサイクルはよいと思うが、3年間に一度実績を見て評価する形なのか。もう少し早くまわせるにした方がよいのではないか。

(介護福祉課長) 評価は、毎年度、運営協議会にお示しして評価をいただきながら進めていきたいと考えている。文言調整を図っていくこととする。

(介護保険係長) 計画の中では、291ページ(1)運営協議会の充実の中で、毎年度進捗状況を検討していくこととして一定盛り込んでいる。

(会 長) この協議会で定期的に諮っていくこととなる。また、見込量の表

に実績値を入れるという意見については、計画の前半で出ているものとあわせた方がわかりやすいのではないかと。

(酒井委員) 274ページについて、今度、特別養護老人ホームが民間でできるということで、見込量を見ても結構な伸びを示している。どのくらい小金井市民の方の入居を見込んでいるか。また法人と市で何か協議がされているのか。2点目は、279ページの施設整備計画について、地域密着型と広域施設型が記載されているが、特別養護老人ホームの整備に伴い、デイサービスやショートステイも整備されるのであれば、その点も触れたほうが見る側にとってはわかりやすいのではないかと。もう1点は、279ページのグループホームについて、向こう3年間、新たな整備の見込みはないということだが、これから認知症の人が増えていく中で、グループホームのニーズがそんなに伸びないという認識なのか。

(介護福祉課長) 新しい特別養護老人ホームができることで、100人程度、小金井市民の方が特別養護老人ホームを利用すると見込んでいる。資料1-2に示したように、255人分については市民が優先で入れるベッドを確保しているが、それにプラスして96人が確保ベッドではないところで特別養護老人ホームを利用している。合計362人が特別養護老人ホームを利用していることになる。小金井市から離れたところの施設を使っている人も、新しい施設に入ることを希望されるのではないかとということで100人程度、計460人程度の方が特別養護老人ホームに入居されるのではないかと見込んでいる。協議状況については、市が整備費などを支出していなく、また特段の協定を結んだ状況ではないが、施設側からは小金井市民になるべく使ってほしいというお話をいただいている。デイサービスやショートステイについては表現を工夫する。

グループホームについては、特別養護老人ホームへの入居がしやすくなっている状況から、空きが出てきている。新しい特別養護老人ホームもできるので、向こう3年間に関しては建設しないという方向で計画をたてた。今まで空きがほぼなかったが、月によっては少し空きが出ている時もある。わずかでも空きが出ているのは、特別養護老人ホームに入りやすくなっているからではないかと考えている。

(酒井委員) 実際に事業者が出てくれば、柔軟に対応するということなのか。計画に出ていないから無理だということなのか。

(介護福祉課長) 特別養護老人ホームができて空き状況、待機状況がどうなるかも分析する必要があると考えている。グループホームの整備については、地域密着型のサービスであるため、保険者の判断による。

(会 長) そのあたりの状況は、よく見ておくべきである。待機の問題や、地域密着型サービスでも空きがあるサービスもある点などいろいろな問題がある。慎重な舵取りが求められる。

(玉川委員) 283ページについて、サービスの負担割合の判定フローで3割負担に下線がついているが、来年度からスタートするのか。

(介護福祉課長) 3割負担については法律で決まっており、平成30年8月から一部の人が3割負担になる。

(井上委員) 280ページの第6節地域支援事業費の見込みについて、全体では7年間で7.4%くらい、1年で1%くらいの伸びである。その中で総合事業が6.7%の伸び、包括的支援事業が9.3%の伸びとなっている。総合事業がこれから増えていくなか、イメージ的にこのくらいの伸びでおさまるのか。

(介護福祉課長) 総合事業の伸びについては、268ページで目標を設定しましたが、それに即した人数と基準単価を見込んだ結果の数値である。

(井上委員) 市基準の人、単価の低い人が増えるから、トータルでは伸びが抑えられるという理解でよいか。

(介護福祉課長) そのとおり。

(会 長) 今回限られた時間なので、ご質問があれば適宜出していただき、調整が必要なら調整するということにしたい。今後の予定、市議会の日程等も見据え、これからの協議を進めなければならない。

計画内容については、サービスの利用状況を見て目標値にどう反映させるか、かなり調整されている。保険料がこの額でおさまっているのであれば、あまり問題にはならないのではないかと考えられるが、サービスの供給、利用が少ないからこのくらいではないかという議論が一方である。そもそも利用していない人がいて提供できていないのではないかという点についても説明できるようにしていく必要がある。

【その他】

- ・ 市民説明会、パブリックコメントについて報告
- ・ 次回日程報告

【閉 会】

午後5時00分